



校長の目 ～西小日々通信～

令和4年10月12日（水）



今朝、校庭のゴミ拾いをしているときに、サクラの木の下で面白いものを見つけました。右の画像は、サクラの落葉ですが、なんとなく顔に見えませんか。こんな虫食いはないと思うので、おそらく子供が落ち葉を顔に見立てて、穴をあけて遊んだのでしょう。近くには、同じような葉が何枚か落ちていました。きれいな落ち葉を探して、それで顔を作って遊ぶ子供たちの様子を想像するだけで微笑ましくなってしまいます。作った葉っぱの顔を友達同士で見せ合いながら、楽しい時間を過ごしたのではないのでしょうか。



時代とともに子供たちの遊びも変化してきました。カードゲームやオンラインゲームなど、作られた遊びを楽しむことが多くなっていますが、元来子供たちは何もないところでも遊びを創造する力を持っています。葉っぱ一枚だけでも楽しい過ごし方を発見するのです。学校が、子供たちの発想や想像を広げる場であり続けたいと考えます。

6年生が家庭科で取り組んでいるバッグ制作もいよいよ終盤です。5年生より一日の長がある分、ミシンの扱いも安心して見ていられます。すでに出来上がった子がいたので、記念撮影しました。今日のホームページに載ることを伝えると、「いつも見てます！」と嬉しい返事がありました。「校長の目～西小日々通信～」もだいぶ認知度が上がっているようで、子供たちや保護者の皆様から応援の言葉をいただくことも増えました。ご愛読いただき、感謝いたします。これからもがんばって更新していきます。



2年生の算数でかけ算の学習が始まりました。かけ算の学習は、今後、上位学年における算数の学習の基礎基本となります。かけ算ができないとわり算ができません。また、かけ算は、倍の概念や割合の意味理解、そして関数の考えの基礎にもなります。もちろん、実生活の中でもかけ算を使う場面は多く存在します。かけ算の習得は、2年生にとっての大きな山場といってもいいでしょう。



かけ算というと、九九の暗唱をすぐに思い浮かべるかもしれませんが、もちろん、それは大切なことですが、かけ算の学習は、それだけではありません。まず、かけ算は、同じ数のたし算（ $5 + 5 + 5$ など。累加と言います。）の簡便算という位置づけであることを学びます。その過程で、「一つ分 \times いくつ分＝全部の数」というかけ算の意味を理解します。次は、九九の学習ですが、九九は「構成」と「暗唱」に分かれます。構成とは、平たく言うと九九をつくることです。5の段や2の段は、1年生のころに5とびの数、2とびの数として学びましたが、それ以外の段は自分で答えを見つけながら九九をつかっていくのです。九九をつくる経験をしないと、暗唱で忘れたときに答えを見つけることができなくなります。意味や仕組みを理解せずに、暗唱だけでよいと思っていると、大きなつまづきが待ち構えています